

# 医療価値と臨床経済の研究会

## 趣意書

最近の人口動態や社会構造の変遷および経済基調の低迷により、医療財源が逼迫するとともに、我が国の医療費を増加させる各種要因のうち、新たな医療技術の導入が占める割合が高まっていると言われている。実際、薬物療法や外科治療を中心に、手技や医薬品・医療機器はめざましい技術革新を続けており、それらが臨床導入されることで、国民の健康改善などに多大な恩恵をもたらしているのも周知の事実である。

一方で、経済基調を超える医療費の伸張も続いており、財源均衡作用が働く報酬改定においては、需要が増えた分だけ単価を下げる圧力が強まる傾向が生まれると考えられる。また、医療技術の高度化やその普及により、平均医療費が上昇し、患者または国民の経済的負担が増加することも想像される。その結果として、報酬単価の抑制や施設基準の厳格化などが進み、新たな技術発展の妨げになることも懸念される。

これらの点を解決し、我が国の医療システムを持続的かつ安定的に運営していくためには、診療需要の増加や新技術の導入に見合う新たな資源投入や適正な配分を促す仕組みが必要であると考えられる。そのためには、医療の社会的な意義を関係者が等しく再確認することが重要であると言える。具体的には、医療の価値 (Value of Medicine) を国民全員が共有し、それを基に将来に向けた議論を進めることが望まれる。

このような背景のもと、本研究会は、医療の価値を明らかにする理論の構築とその説明に必要なエビデンスの蓄積を行うことで、医療システムのさらなる発展に資することを目的とする。特に、アウトカム志向による費用対効果の研究など、臨床経済学の手法のさらなる開拓を目指すことにする。また、これらの活動により、診療価値を対外的に説明し医療資源を有効利用するための行動変容を関係者に促していきたいと考える。

本研究会における研究成果の積み上げにより、医療システムのさらなる向上、発展、ひいては国民福祉への寄与、貢献が大いに期待される。

平成 23 年 10 月 1 日

医療価値と臨床経済の研究会

代表幹事 田倉 智之

